

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年12月16日

【中間会計期間】 第28期中(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 関西高速鉄道株式会社

【英訳名】 Kansai Rapid Railway Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤 岡 繁 樹

【本店の所在の場所】 大阪市北区天神橋二丁目4番15号

【電話番号】 06-6357-3417

【事務連絡者氏名】 総務業務部長 浜 野 浩 一

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区天神橋二丁目4番15号

【電話番号】 06-6357-3417

【事務連絡者氏名】 総務業務部長 浜 野 浩 一

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期中	第27期中	第28期中	第26期	第27期
会計期間	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 9月30日	自 平成26年 4月1日 至 平成26年 9月30日	自 平成27年 4月1日 至 平成27年 9月30日	自 平成25年 4月1日 至 平成26年 3月31日	自 平成26年 4月1日 至 平成27年 3月31日
営業収益 (千円)	7,655,189	7,654,540	7,655,764	15,310,789	15,309,978
経常利益 (千円)	2,399,333	2,658,057	2,983,796	4,784,579	5,379,937
中間(当期)純利益 (千円)	1,483,997	1,701,874	1,993,437	2,907,464	3,136,492
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	75,280,200	75,280,200	75,280,200	75,280,200	75,280,200
発行済株式総数 (株)	1,505,604	1,505,604	1,505,604	1,505,604	1,505,604
純資産額 (千円)	74,568,372	77,693,714	81,121,770	75,991,839	79,128,332
総資産額 (千円)	210,885,801	199,193,255	191,114,917	208,152,819	195,181,929
1株当たり純資産額 (円)	49,527.21	51,603.02	53,879.88	50,472.66	52,555.87
1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)	985.65	1,130.36	1,324.01	1,931.09	2,083.21
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額 (円)					
1株当たり配当額 (円)					
自己資本比率 (%)	35.4	39.0	42.4	36.5	40.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	5,475,120	5,849,400	5,391,954	9,803,821	10,506,672
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)				33,232	
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,467,460	11,141,169	5,949,279	6,025,527	15,246,147
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 (千円)	3,570,331	15,965	10,934	5,307,734	568,259
従業員数 (名)	8	8	7	8	8

- (注) 1 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、中間連結会計期間等に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 営業収益には消費税等は含まれておりません。
- 3 子会社及び関連会社がないため、持分法を適用した場合の投資利益については記載しておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
- 5 従業員数には出資企業からの出向者を含めて記載しております。

2 【事業の内容】

当中間会計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。
また、主要な関係会社に異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当中間会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成27年9月30日現在

従業員数(人)	7
---------	---

(注) 従業員は就業人員であり、出資企業からの出向者2名を含めて記載しています。

(2) 労働組合の状況

当社には労働組合はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当社は、第三種鉄道事業者として、JR東西線の鉄道施設を西日本旅客鉄道株式会社に貸付けるとともに、付帯する土地等の活用を行ってまいりました。

当中間会計期間の鉄道事業営業収益は、西日本旅客鉄道株式会社との協定に基づく線路使用料収入が大部分を占め、7,655百万円(前年同期比微増)となりました。鉄道事業営業費につきましては、減価償却費が156百万円減少したこと等により3,921百万円(前年同期比2.9%減)となりました。この結果、鉄道事業営業利益は3,734百万円(前年同期比3.2%増)となりました。

営業外費用は、支払利息が230百万円(前年同期比47.1%減)、また社債利息は517百万円(前年同期比5.6%増)となり、751百万円(前年同期比22.0%減)となりました。支払利息については、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(以下「鉄道運輸機構」という。)に対する長期未払金を通常の償還に加え、繰上償還し軽減に努めました。

この結果、経常利益は2,983百万円(前年同期比12.3%増)となりました。

また、当中間会計期間においては特別損失が5百万円(前年同期比59.4%減)となり、中間純利益は1,993百万円(前年同期比17.1%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比べ557百万円減少し10百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ457百万円減少し5,391百万円(前年同期比7.8%減)となりました。これは、主に前事業年度末に計上した未払消費税等の支払い額などが増加したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間は投資活動を行っておりません。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ5,191百万円減少し5,949百万円(前年同期比46.6%減)となりました。これは、金融機関への長期借入金の返済額及び鉄道運輸機構への長期未払金の通常償還額と繰上償還額が減少したためであります。なお、当中間会計期間は、社債の発行による収入はありません。

2 【生産、受注及び販売の状況】

当社は受注生産形態をとらない業態であります。このため、生産、受注及び販売の状況については、「1 業績等の概要」にて示しております。

3 【対処すべき課題】

当中間会計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【事業等のリスク】

前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」からの重要な変更は以下のとおりであります。文中の将来に関する事項は、当半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

（元利償還補助金の返還について）

当事業年度における元利償還補助金の返還につきましては、平成23年11月18日付で締結いたしました「片福連絡線建設事業の支援に関する確認書」に基づき、平成27年12月16日開催の第165回取締役会で額を1,400百万円と決議しており、関係自治体（大阪府、兵庫県、大阪市及び尼崎市）へ平成28年3月末までに返還する予定です。

5 【経営上の重要な契約等】

当中間会計期間において、新たな経営上の重要な契約の締結、重要な変更及び解約はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(資産の部)

当中間会計期間における流動資産については、前事業年度末から514百万円減少し145百万円(前事業年度末比78.0%減)となりました。主に、現金及び預金が減少したことによるものです。

固定資産については、前事業年度末から3,552百万円減少し190,969百万円(前事業年度末比1.8%減)となりました。これは主に減価償却の進捗により鉄道事業固定資産が減少したためであります。

(負債・純資産の部)

当中間会計期間における流動負債については、前事業年度末から6,318百万円増加し16,896百万円(前事業年度末比59.7%増)となりました。これは、長期借入金を1,000百万円返済し、また運輸機構長期未払金を7,146百万円返済しましたが、短期借入金が2,197百万円、1年内返済予定の長期借入金が9,000百万円、1年内償還予定の社債が2,000百万円増加したためであります。

固定負債については、前事業年度末から12,379百万円減少し93,097百万円(前事業年度末比11.7%減)となりました。これは、1年内に償還及び返済する社債、長期借入金及び運輸機構未払金長期借入金が減少したためであります。

純資産の部については、純資産合計は1,993百万円増加し81,121百万円(前事業年度末比2.5%増)となりました。これは中間純利益の計上によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの分析

当中間会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比べ557百万円減少し10百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ457百万円減少し5,391百万円(前年同期比7.8%減)となりました。これは、主に前事業年度末に計上した未払消費税等の支払い額などが増加したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間会計期間は投資活動を行っておりません。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比べ5,191百万円減少し5,949百万円(前年同期比46.6%減)となりました。これは、金融機関への長期借入金の返済額及び鉄道運輸機構への長期未払金の通常償還額と繰上償還額が減少したためであります。なお、当中間会計期間は、社債の発行による収入はありません。

(3) 経営成績の分析

営業収益の大部分を占める線路使用料収入は前年同期と同額でありましたが、減価償却費が固定資産の償却の進捗により減少し、また運輸機構長期未払金の通常償還及び繰上償還並びに金融機関への長期借入金の返済により支払利息が減少したことから、経常利益は325百万円増加し2,983百万円(前年同期比12.3%増)となりました。これに老朽資産の取替等に伴う固定資産除却損5百万円を特別損失に計上した結果、税引前中間純利益は333百万円増加して2,978百万円(前年同期比12.6%増)となり、中間純利益は1,993百万円(前年同期比17.1%増)となりました。

第3 【設備の状況】

1 【主要な設備の状況】

当中間会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2 【設備の新設、除却等の計画】

前事業年度末において、計画中又は実施中の重要な設備の新設、除却等はありません。また、当中間会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,600,000
計	1,600,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年12月16日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,505,604	同左		当社では単元株制度は採用しておりません。
計	1,505,604	同左		

(注) 当社の株式を譲渡により取得するには、取締役会の承認を要する旨を定款に定めております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月30日		1,505,604		75,280,200		

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
大阪府	大阪市中央区大手前二丁目1番22号	360	23.91
大阪市	大阪市北区中之島一丁目3番20号	360	23.91
西日本旅客鉄道株式会社	大阪市北区芝田二丁目4番24号	360	23.91
兵庫県	神戸市中央区下山手通五丁目10番1号	64	4.25
株式会社日本政策投資銀行	東京都千代田区大手町一丁目9番6号	51	3.39
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	29	1.98
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	21	1.46
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	21	1.46
尼崎市	兵庫県尼崎市東七松町一丁目23番1号	16	1.06
関西電力株式会社	大阪市北区中之島三丁目6番16号	15	1.06
計		1,300	86.39

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,505,604	1,505,604	
単元未満株式			
発行済株式総数	1,505,604		
総株主の議決権		1,505,604	

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
計					

2 【株価の推移】

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当半期報告書提出日までの役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)	就任年月日
取締役		吉 村 庄 平	昭和34年 1月28日	昭和58年 4月 大阪府入庁 平成16年 4月 同府土木部交通道路室参事 平成18年 4月 同府都市整備部交通道路室街路課長 平成20年 4月 同府池田土木事務所長 平成22年 4月 同府政策企画部危機管理室長 平成25年 4月 同府都市整備部河川室長 平成26年 4月 同府都市整備部技監 平成27年 7月 同府都市整備部長(現任) 平成27年 9月 当社取締役(現任)	(注) 2		平成27年 9月17日

(注) 1 取締役吉村庄平は、社外取締役であります。

2 取締役の任期は、就任の時から平成29年 3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

(2) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役		竹 内 廣 行	平成27年 7月23日

(3) 異動後の役員の男女別人数及び女性の比率

男性10名 女性 0名 (役員のうち女性の比率 0%)

第5 【経理の状況】

1 中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)並びに「鉄道事業会計規則」(昭和62年運輸省令第7号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間会計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)の中間財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより中間監査を受けております。

3 中間連結財務諸表について

当社には子会社がありませんので、中間連結財務諸表は作成しておりません。

1 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当中間会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	568,259	10,934
繰延税金資産	84,620	109,313
その他	6,894	24,795
流動資産合計	659,774	145,043
固定資産		
鉄道事業固定資産		
有形固定資産	1 169,632,362	1 166,387,668
無形固定資産	22,144,526	21,836,470
鉄道事業固定資産合計	2 191,776,888	2 188,224,139
投資その他の資産	2,745,266	2,745,733
固定資産合計	194,522,154	190,969,873
資産合計	195,181,929	191,114,917
負債の部		
流動負債		
短期借入金	-	2,197,000
1年内返済予定の長期借入金	1,000,000	10,000,000
1年内償還予定の社債	-	2,000,000
1年内償還予定運輸機構長期未払金	2 8,057,572	2 1,291,785
未払金	8,187	10,615
未払法人税等	896,338	1,153,187
その他	615,374	3 243,538
流動負債合計	10,577,473	16,896,126
固定負債		
社債	82,499,613	80,499,693
長期借入金	10,000,000	-
運輸機構長期未払金	2 4,493,460	2 4,112,968
退職給付引当金	8,475	8,554
役員退職慰労引当金	2,048	3,278
元利償還補助金返還引当金	8,466,008	8,466,008
その他	6,516	6,516
固定負債合計	105,476,123	93,097,020
負債合計	116,053,596	109,993,147
純資産の部		
株主資本		
資本金	75,280,200	75,280,200
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	3,848,132	5,841,570
利益剰余金合計	3,848,132	5,841,570
株主資本合計	79,128,332	81,121,770
純資産合計	79,128,332	81,121,770
負債純資産合計	195,181,929	191,114,917

【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)
鉄道事業営業利益		
営業収益	7,654,540	7,655,764
営業費	4,036,536	3,921,352
鉄道事業営業利益	3,618,004	3,734,412
営業外収益	1 2,659	1 655
営業外費用	2 962,606	2 751,271
経常利益	2,658,057	2,983,796
特別損失	3 13,822	3 5,618
税引前中間純利益	2,644,234	2,978,177
法人税、住民税及び事業税	963,284	1,009,900
法人税等調整額	20,924	25,160
法人税等合計	942,360	984,740
中間純利益	1,701,874	1,993,437

【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本			純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	
		その他利益剰余金		
		繰越利益剰余金		
当期首残高	75,280,200	711,639	75,991,839	75,991,839
当中間期変動額				
中間純利益		1,701,874	1,701,874	1,701,874
当中間期変動額合計		1,701,874	1,701,874	1,701,874
当中間期末残高	75,280,200	2,413,514	77,693,714	77,693,714

当中間会計期間(自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本			純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	
		その他利益剰余金		
		繰越利益剰余金		
当期首残高	75,280,200	3,848,132	79,128,332	79,128,332
当中間期変動額				
中間純利益		1,993,437	1,993,437	1,993,437
当中間期変動額合計		1,993,437	1,993,437	1,993,437
当中間期末残高	75,280,200	5,841,570	81,121,770	81,121,770

【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成26年 4月 1日 至 平成26年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成27年 4月 1日 至 平成27年 9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	2,644,234	2,978,177
減価償却費	3,704,049	3,547,130
受取利息	2,659	655
支払利息	435,655	230,572
社債利息	489,617	517,175
社債発行費	34,815	-
固定資産除却損	13,822	5,618
未払消費税等の増減額(は減少)	228,227	361,761
その他	24,301	38,566
小計	7,523,461	6,954,823
利息の受取額	2,659	691
利息の支払額	935,711	757,844
法人税等の支払額	741,008	805,716
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,849,400	5,391,954
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	2,223,000	2,197,000
社債の発行による収入	9,965,184	-
長期借入金の返済による支出	11,510,040	1,000,000
運輸機構長期未払金の返済による支出	11,819,314	7,146,279
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,141,169	5,949,279
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,291,769	557,325
現金及び現金同等物の期首残高	5,307,734	568,259
現金及び現金同等物の中間期末残高	15,965	10,934

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法(ただし、鉄道事業取替資産については取替法、平成10年4月1日以降取得の建物については定額法)を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	38～60年
機械及び装置	9～17年
工具・器具・備品	5～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

2 繰延資産の処理方法

社債発行費

支出時に全額費用処理しております。

3 引当金の計上基準

(1) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(2) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規定に基づく中間期末要支給額を計上しております。

(3) 元利償還補助金返還引当金

将来の元利償還補助金の返還に伴う損失に備えるため、契約に基づく返還見込額を計上しております。

4 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金からなっており、現金及び預金の中間期末残高に一致しております。

5 その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(中間貸借対照表関係)

1 鉄道事業有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当中間会計期間 (平成27年9月30日)
鉄道事業有形固定資産の 減価償却累計額	135,400,350千円	138,592,843千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当中間会計期間 (平成27年9月30日)
鉄道事業固定資産(鉄道財団)		
有形固定資産	168,884,934千円	165,648,758千円
無形固定資産	15,157,352千円	15,157,352千円
計	184,042,286千円	180,806,110千円

上記資産を担保としている債務は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当中間会計期間 (平成27年9月30日)
運輸機構長期末払金(1年内償還予定分含む)	12,551,033千円	5,404,754千円

3 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

(中間損益計算書関係)

1 営業外収益の主要項目

	前中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
受取利息	2,659 千円	655千円

2 営業外費用の主要項目

	前中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
支払利息	435,655千円	230,572千円
社債利息	489,617千円	517,175千円

3 特別損失の主要項目

	前中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
固定資産除却損	13,822千円	5,618千円

4 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
有形固定資産	3,395,910千円	3,239,075千円
無形固定資産	308,138千円	308,055千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当中間会計期間 増加株式数(株)	当中間会計期間 減少株式数(株)	当中間会計期間末 株式数(株)
普通株式	1,505,604			1,505,604

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当中間会計期間 増加株式数(株)	当中間会計期間 減少株式数(株)	当中間会計期間末 株式数(株)
普通株式	1,505,604			1,505,604

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額（貸借対照表計上額）、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度(平成27年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
現金及び預金	568,259	568,259	
資産計	568,259	568,259	
運輸機構長期未払金	12,551,033	12,551,033	
長期借入金	11,000,000	11,230,263	230,263
社債	82,499,613	86,191,981	3,692,367
負債計	106,050,647	109,973,278	3,922,631

当中間会計期間(平成27年9月30日)

	中間貸借対照表計上額 (千円)	時 価 (千円)	差 額 (千円)
現金及び預金	10,934	10,934	
資産計	10,934	10,934	
短期借入金	2,197,000	2,197,000	
運輸機構長期未払金	5,404,754	5,404,754	
長期借入金	10,000,000	10,134,086	134,086
社債	82,499,693	86,201,128	3,701,435
負債計	100,101,447	103,936,969	3,835,522

(注) 1 1年内償還予定分及び1年内返済予定分を含んでおります。

2 金融商品の時価の算定方法

資産

現金及び預金

時価については、短期間で決済されるため、帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつてい

ます。

負債

短期借入金

時価については、短期間で決済されるため、帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によつてい

ます。

運輸機構長期未払金

時価については、法令に基づく金銭債務であつて同様の手段での再調達が困難であり、借入平均金利が市場金利に比しても乖離していないことから、時価は帳簿価額にほぼ等しいものと判断し、当該帳簿価額によつています。

長期借入金

時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

社債

時価については、当社が発行する社債には市場価格がないため、新規に同様の社債を発行した場合に想定される利率で、元利金の合計額を割り引いた現在価値により算定しております。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関連会社がないため該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産の中間貸借対照表計上額(貸借対照表計上額)、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

(単位：千円)

		前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当中間会計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
中間貸借対照表計上額 (貸借対照表計上額)	期首残高	188,145,126	181,441,132
	期中増減額	6,703,994	3,184,304
	中間期末 (期末)残高	181,441,132	178,256,828
中間期末(期末)時価		162,444,276	162,613,080

- (注) 1 中間貸借対照表計上額(貸借対照表計上額)は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。
- 2 期中増減額のうち、前事業年度の主な減少は、減価償却費6,648,480千円であります。
当中間会計期間の主な減少は、減価償却費3,178,711千円であります。
- 3 中間期末(期末)の時価算定方法は、主として「不動産鑑定評価基準」に準じて自社で算定した金額(指標等を用いて調整を行ったものを含む。)であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、鉄道事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

当社は、単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が中間損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社は、海外売上高がないため、記載すべき事項はありません。

(2) 有形固定資産

当社は、在外支店等がないため、記載すべき事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

前中間会計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

顧客の名称	売上高(千円)	セグメント名
西日本旅客鉄道株式会社	7,649,000	鉄道事業

当中間会計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

顧客の名称	売上高(千円)	セグメント名
西日本旅客鉄道株式会社	7,649,000	鉄道事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成27年3月31日)	当中間会計期間 (平成27年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	52,555.87円	53,879.88円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額 (千円)	79,128,332	81,121,770
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額 (千円)	79,128,332	81,121,770
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数 (株)	1,505,604	1,505,604

項目	前中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当中間会計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額	1,130.36円	1,324.01円
(算定上の基礎)		
中間純利益金額 (千円)	1,701,874	1,993,437
普通株主に帰属しない金額 (千円)		
普通株式に係る中間純利益金額 (千円)	1,701,874	1,993,437
普通株式の期中平均株式数 (株)	1,505,604	1,505,604

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | |
|-------------------------|----------------|-----------------------------|-------------------------|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類 | 事業年度
(第27期) | 自 平成26年4月1日
至 平成27年3月31日 | 平成27年6月24日
近畿財務局長に提出 |
|-------------------------|----------------|-----------------------------|-------------------------|

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

平成27年12月14日

関西高速鉄道株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 後 藤 紳 太 郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている関西高速鉄道株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第28期事業年度の中間会計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、関西高速鉄道株式会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。